



# さんじょう

八戸市立三条小学校  
令和2年度学校だより  
第15号  
令和2年10月14日  
☎ 27-2216

## 自尊感情や自己有用感を育てる ～行事での成長を学習と学校生活につなげて～

校長 河村雅庸

教室の様子を見てまわりながら、ふと、中庭に目をやると、カエデの葉が赤く色づき始めていました。その様子は、これからの秋の深まりを教えているようです。運動会の振替休業日あけの昨日は、朝からおだやかな晴天でした。力強く昇る太陽のエネルギーを感じながら、令和2年度後半の教育活動の充実を誓ったところです。

さて、10月10日の運動会には、子どもたちの競技や演技に温かい声援をいただき誠にありがとうございました。いまだ収まらぬコロナ禍の中、今年度の運動会は、午前開催となったり、全校での行進や技能走を行わなかったりと、例年とは違う形の運動会となりました。観覧も立見としましたが、保護者の皆様には、長時間立ったままでの観覧にご協力いただいたことに感謝申し上げます。



今年度の運動会のテーマは、『赤い情熱 白い稲妻 頂上へ一直線』でした。全体練習が始まって1週間あまり、「昨日より今日、今日より明日」と一人一人がそれぞれの成長をめざして、開閉会式や応援、競技の練習に取り組んできました。その姿が、赤組白組の中で一つのうねりようになっていく様子は頼もしいものでした。そして、本番のパフォーマンスは、6年生をリーダーとして、赤組白組ともに本当に素晴らしいものでした。

運動会本番に向け、例年通りにはいかない中ではありましたが、子どもたちは、「自分たちの運動会を最高の思い出の運動会にしたい。」という強い思いをもち取り組んできました。そして、日々の練習を積み重ねる姿は、めあてに向かって力を合わせ、まさに一直線に向かう姿だと感動しました。運動会は、子どもたち一人一人の成長を家族や地域の方々に見ていただく絶好の機会です。当日は、1年生は入学してから、また、2～5年生は進級してから半年間の成長を、そして、6年生は小学校最後の運動会でその成長ぶりを存分に発揮してくれたと思います。

運動会の大成功に花を添えてくれた終了後の特別企画、バルーンリリース。6年生一人一人にメッセージがついた風船が手渡され、カウントダウンに合わせ、一斉に風船が手放された瞬間は、子どもたちにとっても、私たち教職員にとっても、忘れ得ぬ瞬間となりました。コロナ禍だからこそ、子どもたちのために思い出に残るものをと企画・準備してくださったPTA関係者の皆様には、改めて感謝申し上げます。学校、保護者、地域が一体となった素晴らしい運動会になったと感じています。

閉会式の児童代表のことばで、「これからもどんな困難にも負けず、いろいろなことにチャレンジし、のびる子、三条っ子としてがんばっていきます。」と話した井上さんの表情は、みんなで力を合わせ運動会を大成功で終えた満足感と自信に満ちあふれていました。国際調査の結果で、日本の子どもの自尊感情や自己有用感が海外に比べ低いと言われますが、今回の運動会を通して、三条小の子どもたち一人一人の自尊感情や自己有用感、確かに高まったのではないかと感じています。運動会を通して身に付けた力や自信を、今後の学習と学校生活に生かしていけるよう励ましていきます。

最後になりましたが、運動会開催にあたり、子どもたちへの温かい声援をいただいた来賓・地域・保護者の皆様、そして、入場門設置や当日早朝の会場準備と閉会式後の後片付け、さらには花火打上に力を貸していただいたPTAお父さん会の皆様には心から感謝申し上げます。今後も、ますますのご支援とご協力をお願いいたします。

